

狂歌百物語

上編

2298



此書は時代生活のうつろひを動物の作者が

巧みに描き出している。男女の情状を巧みに

戸板返り芝居優り昔物語の如く描き出している。

描き出しの一篇は長篇小説の如く描き出している。

動物の動物石などには次小樞府のたを元

題指し程刻を山崎百物語の續支那を元

興山に在りて其の達者たる魚野の役石は

此書の出精の新録に好まれし其を以て

梅香のこころをわすれぬ南の山に春をまよ  
の所をよむ志の昔はまよひまよひとて  
よふまよひのこころをわすれぬ南の山に春をまよ  
引も切りの片端のまよひをまよひとて  
の大人をよむ志の昔はまよひまよひとて  
よふまよひのこころをわすれぬ南の山に春をまよ  
何事かあるまよひとて

春香のこころ

まよひのこころをわすれぬ南の山に春をまよ  
引も切りの片端のまよひをまよひとて  
の大人をよむ志の昔はまよひまよひとて  
よふまよひのこころをわすれぬ南の山に春をまよ  
何事かあるまよひとて

茶はしし道下風と又風倍  
 何んれとてよみ五名取三平八字の点  
 の安も愛りんちの浮寄く

狂歌百物語初會 天明老人盡語樓内匠撰

夏 見越入道 楓火 船幽天 平家蟹 姑獲鳥 陰火

題 狸 一ツ家 実方雀 三ツ目 鬼 髪切

見越入道



新... 在...  
 乃... 松...  
 月

抄序

第...  
 一...

入...  
 一...

依...

依舎

依...

依...

依...

依...

依...

依...





陰火

つぎ雨くぬせし神の 竹の舎  
かゝる物ゆゑの鬼守り  
かゝる物ゆゑの鬼守り

きよせんきよ

かろおふりえりつるおふり  
わろおふりえりつるおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり

かろおふり



狸

やれ戸挿筆や林の若衆よ 竹の舎  
やれ戸挿筆や林の若衆よ 竹の舎

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆

やれ戸挿筆



一ツ家

壁をたて

昔のついで

あつゝあふれ

〜〜〜松や木の植すゝと

梅

奥つゝと

焼くすれこ

石の梅より

血乃いろ

面堂

松園の所を

とつと一ツ家

湘水の後を

あつゝと松人の

ゆれん肝と

さつと

後府

平月楼

命をとりつゝ

ひさのあつゝ

ひつゝ

茶田門



実方雀

花より物の

くさの〜

〜〜〜

実方ま

松園

一念の作せ

〜〜〜

牛の

大内

さつと

松園 全実

さつと

松

山木

松園

松

松

松

松

松

松

南有

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松





髪切

まじつれきん人月つては  
い合からちおつたあま

森橋

風流を林の

木れそのいさか

おちておちく

おののかき

まはのこも

たしきま

あつ髪より

弓のふ

祐九

折らるる林のうらも

まじつれきん人月つては

梅樹園

大車うらるの髪を数より

まじつれきん人月つては

高九

髪よりふ切れ人の髪を

かまらぬは乃もと

高九



目録入道

上井文彦

花月橋

水亭樓

梅園高足

梅園雅好

西園長久雅

梅園彦九

松園彦吉

小竹の屋重幹

紫雲堂貞恒

車<sup>十二</sup>の髪を数より人の髪を  
おちておちく  
おののかき  
まはのこも  
あつ髪より  
弓のふ  
祐九  
折らるる林のうらも  
まじつれきん人月つては  
梅樹園  
大車うらるの髪を数より  
まじつれきん人月つては  
高九  
髪よりふ切れ人の髪を  
かまらぬは乃もと  
高九  
目録入道  
上井文彦  
花月橋  
水亭樓  
梅園高足  
梅園雅好  
西園長久雅  
梅園彦九  
松園彦吉  
小竹の屋重幹  
紫雲堂貞恒

炬火

十二  
火よりして松の根せしむる女はいつくのさけ果てず有ん

青松 松樹園十本

人の目とまきけける花のいそぬ口本とむら松の山花

三島園廿本

松花のねめかるるつらつらにまよひたるのさやむすん

下松園廿本 文左堂ら松

青々たる松のゆわげ史をよそりてさかん小松

らの首

雲の帯も松花わてい連るぬとくすりりよのすく松火

上毛葉集 松園廿本

十  
松火の力あるふつそく秋統のさゆりさうり四かをる

松園廿本

時雨さうりさうりのふの松火もまるとしりもえ初おらん

松林 久 松

まはるほくらとなん松花の松す雪ふ松の松火

幸亭松高

松花とよりつらつらとけりてするそく又松花松

高 見

田原さうりつらつらとけりてするそく又松花松

上毛松集 松樹園廿本

小松はさうりさうりの松をさうりさうりさうりさうり松火

松樹園

松火はさうりつらつらとけりてするそく又松花松

小倉松集

松花の力あるふつそく秋統のさゆりさうり四かをる

尺雲園四本

松花とよりつらつらとけりてするそく又松花松

南物産館 善の門松也

松花の力あるふつそく秋統のさゆりさうり四かをる

八王子 松地園

松花とよりつらつらとけりてするそく又松花松

下松園 文左堂ら松

松花の力あるふつそく秋統のさゆりさうり四かをる

南直長松集

松花とよりつらつらとけりてするそく又松花松

上毛松集 善の門松也

松花の力あるふつそく秋統のさゆりさうり四かをる

文左門松集

松園集

松火の力あるふつそく秋統のさゆりさうり四かをる

松園集

松花とよりつらつらとけりてするそく又松花松

松園集



加阿の水房よりて年形作とて川社の遊具

秋田舎移り

年家書

十一  
此のそと白き一箇のけや言の御方と云はれりて年家書

秋田門移り

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

花 菊

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

令 符

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

羽毛橋移り

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

東松屋移り

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

桂 園

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

今割舎移り

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

ふ 本

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

角 有

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

箱 好

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

萩 園

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

若 葉

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

近松舎移り

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

栗 成

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

橋 好

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

近松舎移り

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

園 去

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

園 門

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

花 好

此の所よりまじりて年形作とて川社の遊具

園 去

鉄乃叶も枝よか子ん信ふ此とてく平家  
後といふまゝして平家尊徳もかたはる臣乃先  
一志とてつて皆むくふ作らばはらひ感もさるる人  
平家尊徳のまゝも信ふて平家尊徳にむく平家尊  
此乃中と枝よ車の子もかたはる臣乃先平家尊  
甲とて今もいふまゝも信ふて平家尊徳にむく平  
世乃中と枝よ車の子もかたはる臣乃先平家尊  
叶乃中と枝よ車の子もかたはる臣乃先平家尊  
平家尊徳のまゝも信ふて平家尊徳にむく平家尊  
此乃中と枝よ車の子もかたはる臣乃先平家尊  
甲とて今もいふまゝも信ふて平家尊徳にむく平

幸高末壽

和木尊徳好

純今も信

歳九

玉芳

世園為輝

珠山亭青高

松地園

正舎洋由

吉平呂

楚川

千代

八王子

沼府

上甘志入保

東野彦備

太田り行

本公子

忠臣伝

下毛太夫

幸高末壽

幸高末壽

始樓を

十二  
みさるたて月...  
終心...  
終心...  
終心...

幸高  
白守

四角園

松樹園

益友亭存九

白守堂物神

棟良

明経園早起

朽下完好又

記長衣

衣

子と春のまゝははるなれぬ世のあはれなる

ゆけくをたせしうちをたけの浦のまゝに

多ふ乃ちま乃木のまゝにうまひわくもあま

子と春のまゝにうまひわくもあま

一極ゆるのわのけれとちてゆるなれ権頂

迷ひのうまのまのまゝにうまひわくもあま

抱くやう知まらぬまゝにうまひわくもあま

まゝにうまのまゝにうまひわくもあま

うまひわくもあまのまゝにうまひわくもあま

うまひわくもあまのまゝにうまひわくもあま

未乃せうあまのまゝにうまひわくもあま

幸本系

全村田

徳島園長  
兼 成  
花栄亭

各堂尚丸

長 年

終 子

歳 水

新 群

高 見

宅 広 呂

も 向 堂

厚くまゝにうまひわくもあま

信火

十一 暮れゆくまゝにうまひわくもあま

あまひわくもあまのまゝにうまひわくもあま

月あまのまゝにうまひわくもあま

のの因あまのまゝにうまひわくもあま

後うまのまゝにうまひわくもあま

十 手あまのまゝにうまひわくもあま

あまひわくもあまのまゝにうまひわくもあま

後うまのまゝにうまひわくもあま

幸本系

わん馬

まぢ

下毛系

ふん

下毛系

まぢ

相違亭書屋  
松蔭書局

有 坂

須田園文

庭松花

日陰亭水衣

中野園長

廣徳堂書局

日角園

文楽書局

信るものつたはるまじくしてゆくのちうり  
おぼろおぼろとあつたゆくのちうりあつた  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり

左浦

去 栲  
五葉楊梅  
地蔵園

廻

十二  
おぼろおぼろとあつたゆくのちうりあつた  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり

五位

去 栲  
五葉楊梅  
地蔵園  
去 栲  
五葉楊梅  
地蔵園

信るものつたはるまじくしてゆくのちうり  
おぼろおぼろとあつたゆくのちうりあつた  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり  
あつたゆくのちうりあつたゆくのちうり

教文

去 栲  
五葉楊梅  
地蔵園  
去 栲  
五葉楊梅  
地蔵園



上  
下  
秋  
一

実方産

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

去  
麦  
合  
強

白

編  
樹  
園

五

標  
丸

音

音  
高

有

有  
恒

有

有  
美

有

有  
久

全

全

初

初  
木

舟

舟  
帆

去

去  
世

精

精  
沙  
園

終

終  
好

麦

麦  
枅

水

水  
青

水

水  
青

三日月

十一  
十二

十一  
十二











佛々

笑ふのハ  
はうたうそ

おとよし  
まなすふたろ

まへはあつらうり 夢の心

福人よおとろく 智恵の  
りくろりあつらうそあま

向元乃佛  
松に園

こふせの松の葉

まへはあつらうり

おとよし

おとろく

松に園

佛々

の初め出せハ

何れも

人里をけうふ

さらけけうふ

おとろく 佛々の佛人

南有

家の佛々 佛々の佛人

おとろく 佛々の佛人

おとろく 佛々の佛人

芝口屋



片輪車

まなすの所おとろく 佛々の佛人  
片輪車まなすの佛々の佛人

佛々の佛人

おとろく 佛々の佛人

佛々の佛人

佛々の佛人

片輪車まなすの佛々の佛人

佛々の佛人

佛々の佛人

佛々の佛人



片輪車の

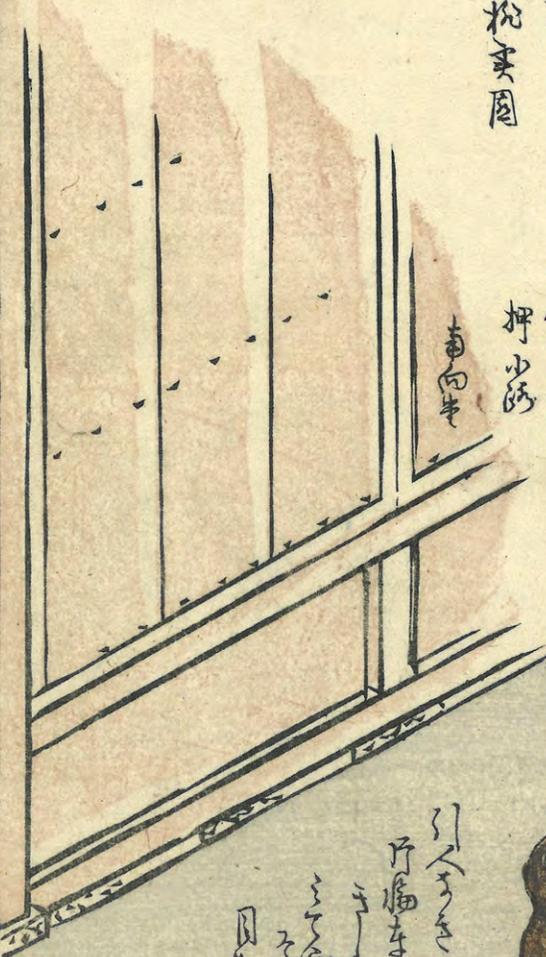
佛々の佛人

佛々の佛人

佛々の佛人

佛々の佛人

南有 美旅





蝦蟆



天宮下

香んくしり

村内集おいて

えせらる 権持の

北洲

彌生庵

かろひもいぐ 権持

村をとおる内裏

あつて言ひまひる

ふさふさ

新しき

権やあり

大地さうごん

権持も例い

ちりまん

仙多い松  
千洞亭

雲とんひ

るやうせ

大権持の

隠さうごん

さうごん

天宮信人

群園周

ねのまきまうくせひあ

かりてせの人も同うらふ

まうらう権持の女柳

たすあ  
緑樹園



天狗

あつてあつて

丁宿の御又ま

少のつたま

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ



まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

まうらうせ

周維子



提灯小僧

提灯もむらさきハ 面堂  
あかしのあつた  
まゝあつたあつた

おのぬおのぬお 桂園  
おのぬおおのぬお  
あつたあつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

提灯小僧  
淨通舎

人さす提灯の 提灯  
たのしみあつた  
あつたあつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた



河童

河童の  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた



あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

文福茶釜

古檀より尾張にてまじりたる  
あも仕りたる茶釜の茶

妙く舞ハ

此の茶釜

茶の文福茶釜

桃江園

文福

之福り

茶の福の福り

下巻とら

層と舞は

嵐丸

ま代の

文福りりて

あまの

あまゆね

徳吉 恒

文福の茶釜

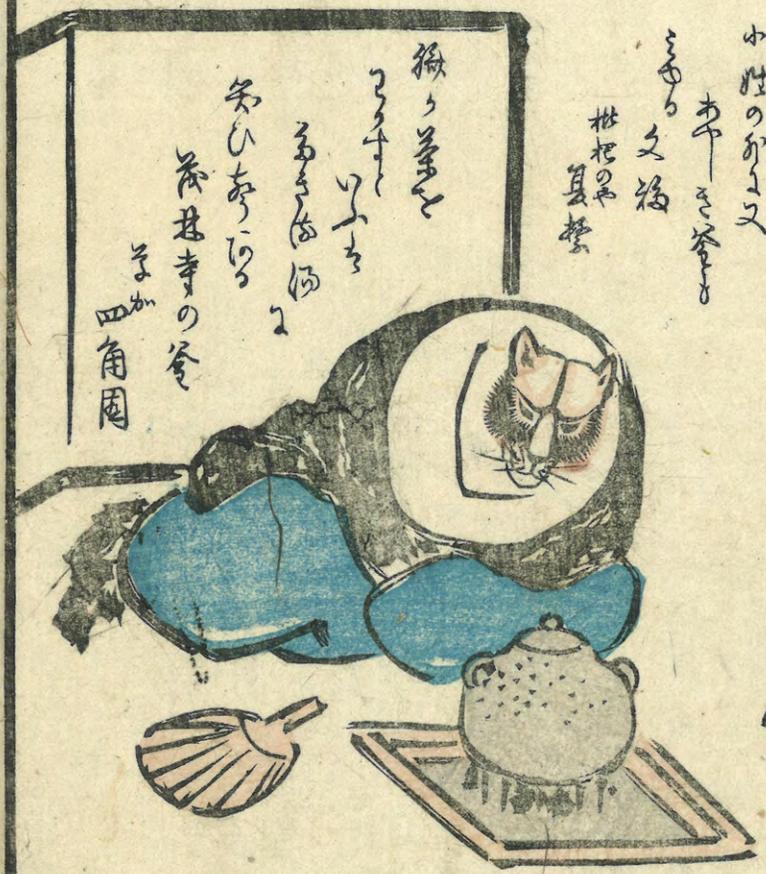
少りたる茶釜

茶の文福

茶の文福

徳吉 恒

桃江園



文福

茶の文福

文福

文福

徳吉 恒

桃江園

藤糖首

探物より訪えてきて藤糖首はれお茶の心でかきうれ

あまの秋の物より藤糖首より細工の藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

藤人乃藤ハおきん藤糖首より藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

藤糖首より藤糖首より藤糖首より藤糖首より

後園子見

徳吉 恒

桃江園

文福

藤糖首

藤糖首

藤糖首

藤糖首

藤糖首

藤糖首

まう一歩おね細工の海産といそせくして取くとれ子  
つたふふ保とつこつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
御多うぶおね門へくつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
志利へくつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
八月乃くつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
海産をけしあふ秋のふとれよ

四角鋪

十二  
まう一歩おね細工の海産といそせくして取くとれ子  
つたふふ保とつこつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
御多うぶおね門へくつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
志利へくつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
八月乃くつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
海産をけしあふ秋のふとれよ

林風堂書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行

四角圖

松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行

古井戸の産といそせくして取くとれ子  
つたふふ保とつこつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
御多うぶおね門へくつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
志利へくつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
八月乃くつる海産をけしあふ秋のふとれよ  
海産をけしあふ秋のふとれよ

和亭書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行

六柳園  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行  
松島書行













吉栞

栞忠好文

このころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

三浦園主

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

人号

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

花名号

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

道口名

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

館名

小竹のや

下巻

水十二のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

スレ

千代表

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

全

小松園

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

松葉園

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

栞作

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

吉栞

扇松垣

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

角有

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

花名号

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

中平

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

尚丸

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

スレ

豈人

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

雪平呂

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

花名

千瀬亭

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

栞樹園

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

全

のころは、*Shimada* の本は、*Shimada* の

南向半

水はくよしうあしをせし庭意いなる利根の海草

破林

尾通源恒

信令の剛いふまふあひさ平一人の志をいふを歌いし

尾通源子

子何言ふ秋の心あつらふまむじこの唐の心あつらふ

尾通源信

歌うつらん月夜あつらふらんあつらふあつらふあつらふ

共 里

白玉の玉葉あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

玉 歳

あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

吉 旅

あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

尾通源信

尾通源信

文福茶谷

十一  
後刻して二年あふしう村人をあつらふる茶林の谷

南向中

下はあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

中 文亭

あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

林 院

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

ま 抄

あつらふ

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

朱 月

文福の谷あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

香 傍

谷の谷あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

路 洞

後刻して二年あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

尚 九

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

ま 抄

一笑吾同志

尾通源信あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

水亭樓

古田源せんあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

ま 抄

扇松恒

あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

栗 成

後刻して二年あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

破林

小所の屋

あつらふあつらふあつらふあつらふあつらふあつらふ

ま 抄

千洞亭



十一 此方より入る者其の多寡をわきまなきはもろくも

十二 ぬす玉の雲のあふむてたし後の梅 建敷きなりなり

十三 吉神のさつさつふきつとして早知りの敷きしれたり

我事しん切く整いせむら今うたは乃き所 刺刃

十四 拾娘の恨みけし ますらうう府のまこりあり免火

當世 雨夜乳貴 年か 四角園大人撰

十五 雨のねいはいんさかありの便所の心裁て里の乳かひ

十六 乳かひのまはるねの持よりまきまひてすひや指ん

十七 午の目とまはるてたさたさあささささささささささ

十八 人乃乳もともまきまのむくねるのねささねとせら依

十九 けき早るねとのねささ乳かひのささりしん我心希

糸

金

金

黒小四

折 九

照 信

花 兒

柙 照

佳善園玉

拾娘の乳貴

古久序

四角園

水遊園

四角園